

最優秀賞（京都府知事賞）

一つの行動が大きな力に

宮津市立栗田中学校  
二年 池永 佳菜子

「中学生でも領土問題に取り組むことができる！」こんな思いが私の心に芽生え始めた。

領土問題というと、「北方領土問題」も大きな問題の一つであるが、尖閣諸島や竹島問題も重要な問題だと私は考える。尖閣諸島問題では、テレビで繰り返し放映された中国での一方的なデモを見て、多くの日本人に不満や怒りがこみ上げたに違いない。

しかし、互いの国の思いが食い違った結果が大きな問題へと発展する今回の場合、戦争が起きないかという恐怖が心の奥底に広がったものの、この時点では、私自身の領土問題に対する意識はあまり変わらなかった。

そんな中、私はこの夏に滋賀県で行われた近畿の中生の研修会に参加して、北方領土に詳しい先生方からいろいろな話を聞いた。そして、日本とロシアの一步進んだ現状と対照的に悔しい現実をいろいろと学ぶ中で、「領土問題」という言葉に深い意味を感じ始めた。

特にその場で見た映像の中に、近畿の高校生・中学生が四島を訪問し、交流するといった事業があり、嬉しかったことは、北方領土に住むロシア人と日本の青年達が一緒に笑っている姿があったということだ。この様子を見て、私も「北方領土を生の目で見たい」と強く思うようになった。

この交流は、四島を訪問する際に必要になるビザをなくした「ビザなし交流」というもので、短い時間であるが、境界線をなくしたことで両国の中高生が交流でき、北方領土を考えるきっかけともなるはずだ。そして、この活動は必ず北方領土問題を前進させるために役立つだろう。

一方、今回の研修で私自身の課題も見えてきた。研修会の中で気づいたこと、それは、私自身が日本に住んでいるのに北方領土の歴史、ロシア人のことや今の状況など知らない事象が多過ぎることである。ほとんどが初めて見たり聞いたりすることであり、そこで改めて私自身の北方領土問題に対する認知度の低さを知ることになった。

私は、この二日間の研修を通して、考えるべきこととあり余るほど見つけることができた。そして講演や説明、社会科の授業など、ほんの短い時間だったけれど、一つの行動が大きな力になることを信じていることができた。

私は今、ねばり強く築き上げた信頼関係をこわすことは一瞬であるように思うので、よけいに領土問題の解決には、両国の信頼関係を丁寧丁寧に築くことが大切であると、両国の信頼関係を丁寧丁寧に築くことが大切であると思うようになった。

だからこそ、私は北方領土問題を解決するために、自身の思いをきちんと伝え、広く発信していこうと思う。

最優秀賞（京都市長賞）

身近な人に『北方領土問題』を伝えよう

京都市立伏見中学校  
二年 大澤 未希

私が北方領土問題を詳しく知ったのは、今年の八月に滋賀県で行われた北方領土研修に参加したことがきっかけでした。それまでの私が北方領土問題について知っていたことは、四つの島の名称とロシアが占拠しているということぐらいでした。ですから、北方領土問題なんて私とは関係がないことだ、と思い込んでいました。つまり、北方領土問題は私にとってとても遠い存在だったのです。

しかし研修を受けているうちに、自分がいかに認識不足だったかということがわかってきました。北方領土問題とは、自分と関係がないどころか、すべての日本人にとって大変重要な意味を持っているということに気が付いたのです。

まず、歴史的に見るならば、北方領土は遠い昔から国際的にも認知された日本固有の領土です。古くから日本人が住み、漁業を中心に平和に暮らしていたのです。その島を武力で奪い取ったのが当時のソビエト連邦です。しかもソビエト連邦は太平洋戦争が終結した八月十五日以降に侵攻を開始しています。こんな不当なことが許されていいのでしょうか。ソ連の兵士に銃をつきつけられて島を追われた島民の皆さんの気持ちを想像すると、私は本当に胸が痛みます。とりわけ小さな子ども達の恐怖

はいかばかりだったでしょう。私はソビエト連邦の行為はあまりにも不当で卑怯だと思います。

次に、北方領土の価値について考えてみます。これまでの私は北方領土について無関心だったので、北方領土の価値など考えたこともありませんでした。しかし研修のなかで、北方領土には大きな価値があるということがわかってきました。北方領土周辺の海は水産資源の宝庫です。また、周辺海域には様々な地下資源が埋蔵されている可能性もあるそうです。こんなにも素晴らしい北方領土なのに、どうして国民の関心はなかなか盛り上がりがないのでしょうか。私はその大きな原因は、国民の多くが北方領土についてあまり学んでいないということにあると思います。つまり大人も子どもも北方領土についての知識をあまり持っていないのです。

しかしこれを克服する方法はあります。私が北方領土研修でいただいた多くの資料を家のテーブルに置いておいたところ、家族のみんなが手にとって読んでくれました。そして家族みんなが北方領土問題について話しあうことが出来ました。おかげで私の家族の北方領土問題についての理解は一気に深まりました。このことは、何かのきっかけがあれば、国民の北方領土問題についての理解が進むということを示しています。私はこれからも研修で学んだことを親戚や友人など身近な人に伝えていこうと決意しています。そして国民皆が北方領土に強い関心を持つことにより、北方領土を取り返す日がきっとやってくることを確信しています。